

あの日から10年。これまでとこれからを考える。

風景の変化によって人の心はどのように変化していくのか。そして、地域文化はどのように変わりゆくのか。東日本大震災の発生により、気仙沼・本吉地域から失われたものは何か。その一方で新たに生み出されたものは何か。

リアス・アーク美術館は、開館以来、総合博物館的な活動を続ける中で、地域の重要な歴史的、文化的出来事として過去の津波災害を調査研究対象としてきました。2006年には明治三陸地震津波の記録物である『風俗画報大海嘯被害録』の内容を紹介する企画展を開催、将来的に想定される大津波襲来の可能性について、地域住民に普及してきました。そのような活動の最中、「あの日」を迎えることになりました。

当館学芸係は、特命による東日本大震災記録調査活動を行い、その調査資料の一部を以て『東日本大震災の記録と津波の災害史』常設展示を新設、公開し現在に至っています。以降も被災地の記録調査を継続し、加えて日本国内の大規模災害被災地の調査研究を重ねてきました。さらに海外事例の一部も収集しています。

本展では、この10年間に蓄積された研究成果の一部展示公開するとともに、芸術文化を専門領域とする美術館学芸員の視点でとらえた東日本大震災発生からの10年間をレポートします。メインテーマは「災害と風景」。震災発生直後から現在までの風景の変化に注目した内容を展開します。

展示では、未公開の被災現場記録写真や気仙沼市、南三陸町の被災直後と現在の比較写真を紹介し、復旧復興事業の成果と残された課題の検証や、「伝承すべきこと」の再確認、「震災記憶再生のための表現」を考察します。また、当地域以外の被災地の10年後の様子や伝承施設等の紹介、さらに国内外の震災等、大規模災害被災地等の情報の一部を紹介します。

その他、特集として三陸沿岸部における復旧復興状況調査に基づく資料の紹介、復興事業として各地で進められてきたインフラ整備、防災構造物、復興記念施設、遺構、災害伝承施設などの現状を紹介します。

本展を通じ、私たちにとっての東日本大震災の意味を確認しつつ、被災地の美術館として、この10年を独自の視点で振り返り、可視化するとともに、「11年目以降」の地域文化をイメージするための場と、これからの気仙沼・本吉地域について思考する機会とします。



2011年3月25日 気仙沼市内の脇1丁目
津波後に発生した火災によって焼失した一角。家屋も車も無残な姿となった。本展では未公開の被災現場画像約350点を公開予定。



2021年4月28日
気仙沼市本吉町今朝晩(二十一浜)
防潮堤工事の様子。



2016年2月24日 南三陸町中心部(志津川湾へと注ぐ八幡川と両岸付近の様子)
全土でかさ上げ工事が施され、旧来の地面が地下深く埋没していく。高く盛られた土はどこかの遺跡のような雰囲気をもたらしている。震災遺構となる旧防災庁舎はまだかなりの部分が見えている。



2011年3月29日 気仙沼市魚町
漁船が打ち上げられた石奥の鹿折地区では、土地のかさ上げと区画整理、インフラの整備が終了し、新築物件が増え始めている。道路脇に立ち並ぶ真新しい電柱との対比が印象的である。



2020年10月28日(同左)
JR大谷海岸駅と国道45号線。かつて大谷海水浴場に隣接し「日本一海に近い」と謳われた駅は、かさ上げた土地へ集客場を移し「道の駅」となった。現在の45号線は防潮堤の上を通る。



2011年5月9日 気仙沼市本吉町三島
JR大谷海岸駅と国道45号線。かつて大谷海水浴場に隣接し「日本一海に近い」と謳われた駅は、かさ上げた土地へ集客場を移し「道の駅」となった。現在の45号線は防潮堤の上を通る。



2020年12月10日(同左)
JR大谷海岸駅と国道45号線。かつて大谷海水浴場に隣接し「日本一海に近い」と謳われた駅は、かさ上げた土地へ集客場を移し「道の駅」となった。現在の45号線は防潮堤の上を通る。

当時/現況/比較/他地域関連施設等/国内外事例/施設等



2021年4月28日
南三陸町新井田に新設された「志津川中央団地」



2021年8月18日 全線開通した三陸自動車道
気仙沼港出口から気仙沼湾橋南橋方面を望む



インドネシア アチエ州の震災遺構「発電船 PLTD」
※2004年スマトラ島沖地震津波によって被災(海外の事例)



「福むらの火」の舞台となった和歌山県広川町
瀬口橋陵が建造を指揮した広川堤防(国指定史跡)(国内災害事例)



東日本大震災発生10年特別企画展「あの時、現在 そしてこれから」2022.2.5(土) ▶ 3.21(月)

観覧料・入館料は無料です ※2/24(木)は休館、3/21(祝)は開館です。

リアス・アーク美術館利用案内

- 常設展①「収蔵美術作品展」 ②「歴史民俗資料展」= 舟丹日記「海と山を生きるリアスなくらし」 ●東日本大震災の記録と津波の災害史展【常設展観料料＝一般:700(600)円/大学・専門学校生:600(500)円/高校生:500(400)円/小学生:350(250)円 ※(内)は20名以上の団体料金】
- ワークショップ＝主に土・日を中心に開場するアトリエ。定期的に絵画やクラフトの講座を開催しています。美術に関する質問も受付ます。
- レストラン「キッチンズスペースのぞみ」地元元村中心の創作料理をご提供。日替りランチ(¥600)、シーフード系パスタ・カレー(¥900〜)ほか

■三陸自動車道【気仙沼中央 IC】から約5km(仙台市から約120km/石巻市から約70km/陸前高田市から約25 km)
■東北自動車道【一関 IC】から約50 km ◆無料駐車場あり(普通 37台・大型5台)

■東北新幹線【一ノ関】-【大船渡線】-【気仙沼】-【東北新幹線【仙台】-【気仙沼線】-【気仙沼】 気仙沼駅からタクシー(約15分〜)をご利用ください。 ※タクシー割引券と「常設展観覧券引換券」のセットクーポン券が気仙沼駅前観光案内所、気仙沼観光コンベンション協会 (tel:0226-22-4560)で販売中。 ※気仙沼線、大船渡線の一部はBRT運行。

ホームページQRコード

